

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900021		
法人名	株式会社フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス古新町 ユニット2		
所在地	愛知県名古屋市長久区古新町二丁目72番地		
自己評価作成日	令和2年8月27日	評価結果市町村受理日	令和3年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・町内の行事、いきいきサロン、町内のカラオケ等に参加し地域の方との交流を大切にしている。 ・ユニット2では猫を飼っており、普段の馴染み深い生活をして頂き、利用者様の安全を考え毎日楽しく元気で過ごして頂ける様支援に努めている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy-osvoCd=2390900021-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長久区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年10月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・利用者様で権利擁護を利用されている方はいらっしゃいますが、日頃から制度に関わる機会が少ない為制度について勉強会の機会を設けて行きたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約時にご家族様やご本人様の要望や不安事を伺い、当施設でのケアの方法を説明し納得して頂いた上で契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・現在新型コロナウイルスの影響もあり面会の制限を行っていますが、ご家族様から連絡を頂き面会の予約をし来られた際にご家族様の意見や要望をお伺いする時間を設けています。また玄関に意見箱も設置してあります。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・毎月職員会議を行い、施設運営に反映させる様にしている。また急ぎでの意見がある職員は意見んの場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・管理者を通じて、勤務状態・態度・やる気などを事務長に報告し職員の給料水準に反映し、職場環境の改善を努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・施設内での研修を行い、職員一人一人のケアの内容や力量の把握に努め、また現在新型コロナウイルスの影響もあり研修が行えていない為、少人数で行える研修の機会を増やしていきたいと思ひます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・新型コロナウイルスの影響もあり外部研修など行えていない為、外部との交流が出来ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・ご利用者様が入居する前に事前に面談を行い生活形態の把握に努め、入所後一週間24時間シートを使用し職員間で情報を共有しケアに繋げています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入所前から、ご家族様の不安や要望をお聴きし、ご家族様やご本人様に寄り添いながら関係を築ける様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入所前の施設、病院などから情報収集を行いご家族様からも様子を聞いている。またご本人様の要望などをケアプランに取り入れご本人様の同意のもとで、必要に応じてサービスを利用して頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・入所後、他利用者様も含め一緒に生活する者同士信頼関係を築き協力しご本人様の出来る事(食器拭き・洗濯物干しなど)自発的に取り組んで頂ける様な環境作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・ご家族様の面会時に利用者様の日頃の生活状態の様子を報告し相談したりもしている。ご本人様の要望も取り入れ共にご本人様を支えていく環境を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・馴染みの方は時々面会に来られたりしますが、利用者様から会いに行ける機会は殆どないです。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・利用者様が孤立しない様に皆でレクリエーションを行ったり、職員が会話のきっかけを作り、ご利用者様同士が関わり合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・契約終了後でも、ご家族様から何か相談などあれば対応を行い支援をしています。が、こちらから連絡は取れていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・普段からご本人様との会話、コミュニケーションを重要とし職員同士も情報交換により把握しカンファレンスや会議で検討している。またご本人様にも要望を聴きプランに反映させています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入所前より情報収集を行い、足りない部分にはご本人様やご家族様と連携を取りながら情報収集を行い記録に残し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・一人ひとりの一日の様子を記録に記入に残し、また真衣に職員同士で日中、夜間帯、日頃の出来事などを申し送り(情報共有)をし情報収集を行い現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・定期的にモニタリングを行いカンファレンスを行っています。ご利用者様、ご家族様の意見も伺い説明・同意を頂きケアプランの作成、実行をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・ご利用者様一人ひとりに個別記録を用意し食事量・水分量・排泄、を一日の記録に書き留めている。職員間で情報共有を出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・通院は基本ご家族様へ依頼しているが急変時や必要に応じ対応を行っている。また必要な物品など購入が必要な時などは、お預かりしているおこずかいで施設職員の方で購入しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・新型コロナウイルスの影響もあり町内のいきいきサロン等の行事に参加出来ていませんが、訪問理美容、訪問歯科、訪問眼科、訪問マッサージなどは利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・2週間に一度協力医療機関の主治医の往診を受けています。必要であれば入所前からのかかりつけ医の往診を受ける事もできます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・2週間に一度提供医療機関の看護師に健康管理の為に往診を受けている。介護職員の気づきなどを担当看護師に報告、相談しアドバイスを頂き利用者様の体調変化に気づきケアを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時にはサマリーを作成し、情報を伝えています。定期的に利用者様の面談に行き状態の把握に努め、退院時には、カンファレンスに参加させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・当施設では、医療行為、終末ケアの対応を行ってない為、重度化する手前からご家族様や関係医療機関と相談をし、ご家族の意向の元、適切なケアの方針を決めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・緊急時のマニュアルは作成しており、職員も把握に努めています。尚定期的に緊急時の対応の勉強会も施設内研修として行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・年に4回地震や火災、津波を想定した避難訓練を行っています。また災害時に地域の方にお問い合わせの方を決めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・ご利用者様は人生の先輩であるこという事を常に頭に置き一人ひとりの人格を尊重するようにしている。また職員間での情報交換の際は、個人の名前を出さないよう情報交換を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・利用者様の意思決定を優先し、意思表示が難しい場合には、選んでいただく等の支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・基本的な一日の流れは決まっていますが、一人ひとりの生活リズムを大切に、その日の体調などを考慮したうえで一日を過ごして頂く様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・自己決定が出来る方にはご自身で選んで頂き難しい方は職員と一緒に選んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・利用者様の出来る範囲で準備や片付けなどをして頂いています。メニューに関しては好き嫌いを考慮したうえで食事作りを行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・水分量や食事量は記録に記載し、一日を通し摂取量などを管理しています。メニューに関しては栄養が偏らない様、作成時には気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・起床時や毎食後に自己にて出来る方は行って頂き、出来ない方には必要に応じて介助を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・利用者様の排泄パターンを記録に残し把握したうえで時間に合わせ声掛け誘導をするようにしています。また必要に応じパットやリハパンの使用も検討しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・毎朝起床時に氷水や牛乳などを必要に応じ提供しています。毎日体操やストレッチに参加して頂き便秘の予防に繋がっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	・入浴の時間は決まっていますが、順番を考慮するなど、平等に入浴を楽しんで頂ける様支援に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・個々に合わせたレクリエーションを提供し、日中活動的に過ごして頂き、夜間しっかり良眠できる様に心掛けています。また日中に休みたい方は適度に臥床して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりに個別ファイルを設け職員全員が目的や副作用について把握できるようにしています。また状態の変化も観察し記録に残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・利用者様の出来る範囲でお手伝いなど役割分担をし行っている。得意とされる事を気分転換に楽しんで頂ける様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・現在新型コロナウイルスの影響もあり、町内への散歩、外出などが行えていない状況です。たまにご家族様が面会に来られた際、町内への散歩へ出かけられる時がある為、マスクを着用し散歩に行かれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・必要とされている利用者様においては、個別で多少のお金をご自身で管理して頂いています。また買い物に行ける利用者様は職員が同行しご自身の好きなお菓子などを購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・利用者様からは手紙を書く支援は出来ていませんが、三カ月に一度古新町たより(利用者様の様子など)をご家族様にお手紙としてお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・リビングや玄関などは、季節感の飾り付けや行事の際の写真などの提示をしていますがその他の場所には飾り付けなどが出来ていません。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・利用者様同士の関係を考慮しながら席の配置を行っています。またリビングにある共用スペースのソファなどを利用して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・入所時の際使い慣れた家具などを持ち込まれている利用者様もいらっしゃいます。過ごしやす空間になる様にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・トイレやお風呂などに壁紙などを貼り分けやすい様に配慮しています。ご利用者様の状況に合わせ物の配置にも考慮しています。		